

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	白石町立白石小学校
-----	-----------

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・ICT利活用については、Meetを活用した遠隔授業、Jamboardを活用した考え・作品の共有、Formsを活用したアンケート集計など様々な場面で有効活用することができ、校内研で互いの利活用を共有し合うことができた。次年度も、引き続き活用し、全職員のスキル維持、さらなるスキルアップを図っていく。同時に、家庭でのスマホ・SNS等の利用における課題が生じた。正しい活用ができるように、家庭を巻き込んだ『情報モラル教育の充実』を一層図っていかなければならない。 ・算数科の校内研究を中心として、一人一台の学習者用端末を活用しながら、児童の学力向上を目指し、研修を深めてきた。学習状況調査が県平均を上回る結果であったが、個別の支援を充実させながら対話活動を充実させ、深い学びへ誘うことが今後求められる。 ・全職員で日々感染対策、危機管理を行ってきた。すべきことを確認し合い、情報共有し、児童の安心・安全な学校生活を保つことができた。今後も、安心・安全な学校生活の保持のため、心身を強く、たくましく育む教育、ならびに危機管理の徹底を図っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	心豊かに、創造性を発揮し、たくましく生きる子どもの育成 ～元気＋笑顔＋夢＝幸せいっぱい～
----------	---

3 本年度の重点目標	令和6年度スローガン「出番・役割・承認」 Ⅰ 確かな学力 ・どの子ども楽しく「わかる」「できる」確かな学び ・ユニバーサルデザインの推進【環境のUD・授業のUD】 Ⅱ 豊かな心 ・感謝する心、思いやりの心、協力する心 ・気持ちのこもったあいさつ ・ユニバーサルデザインの推進【人的UD】 Ⅲ 健やかな体 ・生活、運動習慣の充実 ・体育的活動の充実 ・安全教育
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○校内研究の充実	○校内研究に関するアンケートにて、自分の考えをもち、交流活動を通して、課題解決をしていると回答している児童が80％以上	・児童が自分なりの方法をとりながら、交流活動を通して、課題解決できるよう、手立てをとって授業を行う。	A	・後期の校内研究アンケートでは、課題を自分で解決できる児童が93%、わからないときに友達や先生に質問できる児童が87%だった。前期よりも肯定的な回答をした児童の割合が増え、数値目標の80%以上を上回った。来年度も、児童の学力向上のため、校内研究等で指導力向上に努めたい。	A	自分の考えを持ち、課題を解決できたと答えた児童が90％以上に達したことは、大変素晴らしい成果だと言えます。これは、先生方一人ひとりが授業の改善に努められた結果であると思います。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●学校アンケートにて、道徳の授業で自分の考えをもち、友達の交流の中で考えを深めたりすることができた児童が80%以上	・ふれあい道徳を実施し、全学級で授業を公開する。 ・授業後、ワークシートに振り返りや感想を書かせ、学級通信等で保護者に知らせる。	A	・授業参観で全学級道徳の授業を公開し、通信などで保護者に授業の様子を伝えることができた。その結果、学校アンケートで「道徳の授業の中で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた児童が92%、「子どもの実態に応じた道徳教育・豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と答えた保護者が99%だった。	A	職員や保護者からの評価は特別高いわけではないものの、児童が道徳の授業を通じて自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする姿勢が評価できます。また、学級通信や授業参観を通じて、豊かな心の育成について積極的に啓発を行っている点も評価に値します。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が80%以上 ○いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が80%以上	・毎月「心のフォーム」を実施する。 ・人権集会(教室)を計画的に実施する。 ・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策について協議する。	A	・いじめ防止等組織的対応ができていると回答した教員が100%だった。 ・いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が93%だった。 ・年間通して取り組んでいる「心のフォーム」、指導事項の明文化と共有、気になる児童についての共有が功を奏したと考えられる。	A	「心のフォーム」や「先生あのね」の時間を活用し、全児童に個別の時間を確保している点は安心できます。児童の気持ちに寄り添う取り組みが信頼関係の構築に役立っていますが、一部の児童や保護者から不満の声もあるため、引き続き情報共有を徹底し、円滑なコミュニケーションと環境改善に努めてほしいと思います。
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が80%以上	・自分の目標や将来の夢について考える機会を授業の中に設定する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行い、一人ひとりに「出番・役割・承認」を与える活動を仕組む。	A	・将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が88%であった。今年度もプロの選手によるスポーツ教室やものづくり体験教室など外部講師と関わる場を設けることができた。 ・各種体験活動では、児童一人ひとりに、「出番・役割・承認」を与えることを全職員で共通理解し、学びのふり返りを行い、次に繋げることを意識して行った。	A	将来の夢や目標を持つ割合が高く、その意欲が日々の学びに生かされていると感じます。学習発表会では、一人ひとりが自分の役割をしっかりと理解し、主体的に活動しながら表現する姿がとても印象的でした。こうした経験は、自己肯定感や協調性を育む大切な機会となります。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○各学年の目標就寝時刻までに寝る児童70%以上 ○朝食をとる児童90%以上 ○1日3回歯磨きをする児童80%以上	・9月と1月に「はなまるすこやかチェック」を実施し、1週間、就寝時刻、朝ごはん、歯みがき、ゲームの時間等について振り返らせる。 ・実施前に保健指導を行い、自分の生活を見直したうえで自分なりの目標を立てさせる。 ・便り等で保護者に知らせ、協力をお願いする。	A	・9月のはなまるすこやかチェックの結果、目標就寝時刻までに寝ることができた児童は73.1%だった。全体としては目標を達成できているが、低学年が、寝るのが遅い傾向だった。朝食については97.7%が食べてきていた。また、1日3回歯磨きをする児童は87.5%だった。今年度も、全学年にブラッシング指導を行うことができ、口腔の健康について知識と実践力を高めることができた。1月のはなまるすこやかチェックは、9月の結果をもとに児童一人ひとりが自分の生活を振り返り、目標を立てて取り組ませた。 ・はなまるすこやかチェック週間は学級だよりで保護者に知らせ、コメントから、家庭でも声掛けをしていただいたり、一緒に取り組んだりしてもらっている様子がわかった。	A	また、学校教育に加え、自然体験や地域行事への積極的な家庭で「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣をしっかりと定着させることが重要です。アンケート結果からも、「早寝」に課題があることが明らかになっています。児童の健やかな成長のため、生活習慣の見直しと意識向上に向けた取り組みをお願いいたします。
	○運動習慣の改善と体力づくり	○週に3日以上外に出て、遊んだりスポーツをしたりした児童が80%以上 ○外遊びのための具体的な方策を考えている児童が80%以上	・委員会が運動遊びの内容を決定し、イベントの運営・企画をする。 ・外遊びウィーク(12月)を設定し、外遊びを推奨する。 ・体力づくり強化月間(持久走・なわとび等)に取り組む。	B	・委員会による外遊びウィークや長縄とび月間など運動をする機会を設定したり、教師が外遊びを推奨し声かけを継続したりすることによって、体を動かすことを児童は意識している。しかし、児童は外遊びができていないと回答している。安心して外遊びができる時間が年々少なくなり、思う存分に遊べないことも原因の一つである。 ・計画した内容について、児童は楽しんで取り組むことができています。今後も続けていきたい。	A	児童の運動習慣や体力づくりに対する意識は高いといえます。しかし、個々の体力や家庭環境には違いがあるため、それぞれに応じた柔軟な対応が求められる。さらに、子どもたちの意識を高める働きかけを強化し、運動習慣の定着を図ることが重要だと思います。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●年間を通しての時間外勤務時間平均が45時間以下100%	・教職員出退勤管理システムを積極的に活用し、月平均の自分の勤務状況を把握し、各自でタイムマネジメントしていく。 ・配布物・調査物等デジタル化したり、会議を精選しゴール(めあて・終了時刻)を明示したりして、業務削減を目指す。 ・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、掲示板に掲げたり、個別に声掛けをしたりする。	A	・4月～1月の10ヶ月間において、全職員1ヶ月平均は45時間以下であった(平均26:41)。一番多い月で5月の36:43。少ない月は8月の4:32。引き続き、45時間を超えない勤務時間となるように、服務管理システムを効果的に活用しながら、声掛けを続けていく。	A	先生方の時間外勤務時間の平均が月45時間以下を100%達成できており、意識と行動がしっかりと結びついています。学校全体でタイムマネジメントが徹底され、業務の効率化が図られていることも素晴らしいことです。今後も、こうした取り組みを継続しつつ、子どもたちとのコミュニケーションの場を大切にしていきたいと思っています。
	○学校組織、教職員集団としての働きやすい雰囲気づくり	○一人で抱え込まず、気軽に情報交換や相談ができる職場だと思える職員80%以上	・情報を共有する場を設定する。(週に1回の連絡会) ・ストレスチェックを行い、各自の心の状態を把握する。 ・職員同士が気軽に話せる時間を設定する。(各学期に1回程度)	A	・放課後の時間などを利用し、学級運営で困っていることや気になることを情報交換することができた。 ・9月頃に行ったストレスチェックで、各自心の状態を把握することができた。 ・一人で抱え込まず、気軽に情報交換や相談ができた職員が、100%。限られた時間ではあるが、放課後の時間などを利用し、親和的な場を設けていることができています。	A	職員間のコミュニケーションを最も大切にしていきたいと思います。円滑なコミュニケーションは、職場の信頼関係を深め、業務の効率化にもつながります。今後も、明るく活気のある職場づくりが推進されることを願っています。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進 ○ユニバーサルデザインの推進	○インクルーシブ教育について知っている職員が100% ○ユニバーサルデザインについて知り、学校共通の取り組みが行う職員が100%	・インクルーシブ教育についての研修を行う。 ・ユニバーサルデザインについて、研修を行い共通理解する場を設定する。	B	・ユニバーサルデザインについて知り、実践に役立てている職員は、93%、インクルーシブ教育について知り、実践に役立てている職員は87%であった。 ・夏休みに行った研修で、ユニバーサルデザインについての共通理解ができたが、2学期にインクルーシブ教育についての研修会を行うことができなかった。次年度、研修ができるように計画したい。	B	児童が困っている友達と関わり、ともに活動する姿勢は、心の成長にもつながり、とても素晴らしいことだと思います。そのような関わりをより深めるためにも、日常の中で大人が積極的に声をかけ、支援の大切さを伝えていくことが重要です。ぜひ、次年度も引き続きインクルーシブ教育を推進し、ユニバーサルデザインの考え方を広めていただければと思います。すべての児童が安心して学び、互いに助け合える環境づくりに向けて、今後の取り組みに期待しています。
○図書館教育	○読書活動の充実	○年間読書100冊に達した児童が90%以上	・多読賞や読書マスターの表彰、「100冊達成の掲示」を継続する。 ・図書館イベントの開催や公共図書館との連携、家読の推進、学校の読書活動のお知らせ、「100冊達成の掲示」に関する事項等を図書館便りで伝えることで、多くの本と出会う機会を作る。	B	・年間読書100冊に達した児童は91%であり、200冊、300冊の本に親しむ児童もいた。 ・毎月の図書館便りから「学校での子どもの読書活動を知ることができる」と回答する保護者が93%であった。今後も児童の読書活動の充実にもつながるよう、知らせていく。	B	読書習慣を定着させるためには、学校だけでなく家庭での取り組みも重要です。特に、親子で読書を楽しむ「家読」の充実を図ることが求められます。読書は言語力や想像力を育む貴重な機会であり、社会全体で支援しながら、子どもたちが本に親しむ環境を整えていくことが大切です。
○安全教育	○危機対応力の育成	○「学校は防災や不審者侵入などの対策ができています。」と答えた保護者が80%以上	・年3回の避難訓練を実施し、職員・児童の危機対応力を高める。 ・月1回の安全点検を確実に遂行する。	A	・年3回の避難訓練(不審者、火災、地震)の避難訓練を計画通りに実施し、職員及び児童の危機対応力を高めることができた。保護者の好意的評価は94%、職員の好意的評価は100%であった。 ・月1回の安全点検を確実に遂行することで、校内の安全管理に努めた。	A	子どもたちの命を預かっていると言っても過言ではなく、日々のご尽力に感謝します。一方で、保護者の方々は、有事の際の組織的な対応が十分ではないと感じています。児童や先生方と比べて、保護者の危機管理に対する認識や準備の度合いが低い傾向が見られるため、児童から保護者へ訓練の様子を伝える機会を設けることも重要かと思っています。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	1. 確かな学力【授業力の向上】 児童が自ら考え、交流を通じて課題を解決する実践を重ねてきた。その成果は意識調査やCRTの結果にも表れている。次年度は、「教える」から「引き出す」指導に転換し、すべての児童が「わかる」「できる」授業を目指す。そのためにも、教師自身が単元構成の重要性を問い続け、一人ひとりの理解を深め、学びやすい環境を整える。 2. 豊かな心【特別支援教育の充実】 多様なニーズに対応した個別支援の充実や共に学び合える環境づくりに取り組んできたが、さらなる改善が求められる。次年度は、児童が安心して学べるよう、適切な手立てを講じるとともに、周囲の理解を深める取り組みを進める。また、教職員の専門性向上を図り、支援の質を高めることで、より充実した教育環境を整えていく。 3. 健やかな体【危機管理・安全教育】 年3回の避難訓練を意図的・計画的に実施し、職員・児童の危機対応力を高めることができた。しかし、有事の際、保護者・地域とともに組織的な対応ができていないとは言えない。次年度は、中学校と連携を図り、危機管理の徹底を図っていく。
-----------------------	--